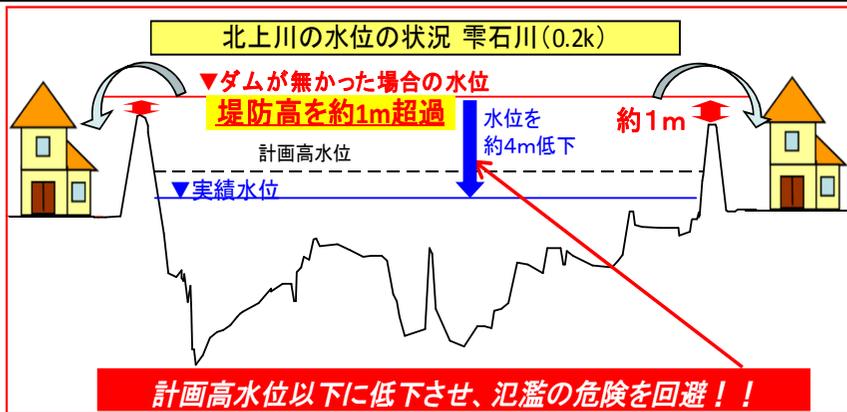


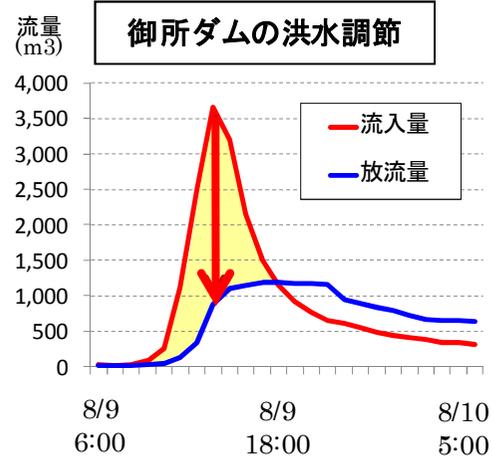
予防的な治水対策により被害を大幅に軽減

- 平成25年8月9日の豪雨では北上川の上流域において大規模な出水が発生。特に御所ダムには**これまでの最大流入量の1.7倍となる約3,700m³/sが流入**。
- 御所ダムおよび四十四田ダムの洪水調節等によって下流河川の水位低減を図り、下流の盛岡市（雫石川合流点付近）では避難判断水位以下の水位に抑え**浸水被害を防止**。
- 仮にダムが整備されていなければ、計画高水位を大きく上回る出水となり、盛岡市街地へのはん濫により、**約11,700戸の浸水、約5,500億円の被害が発生していたと推定**。



計画高水位以下に低下させ、氾濫の危険を回避！！

ダムが無かった場合にははん濫が想定される浸水状況



下流に流す水の量を、最大毎秒約2,500m³低減 <約7割低減>



- 今回の出水により、御所ダムの湖面には、平均的な年間捕捉量の約25倍に相当する約26,000m³の流木やゴミ等が溜まった。
- 流木やゴミがそのままに河川に流れた場合、堤防等の河川管理施設に損傷を与えたり、橋梁に引っ掛かることで**流下阻害**を起こしたりするおそれがある。
- ダムにより流木を捕捉することで、洪水の軽減だけでなく、**下流河川での流木による被害の軽減にも貢献**した。

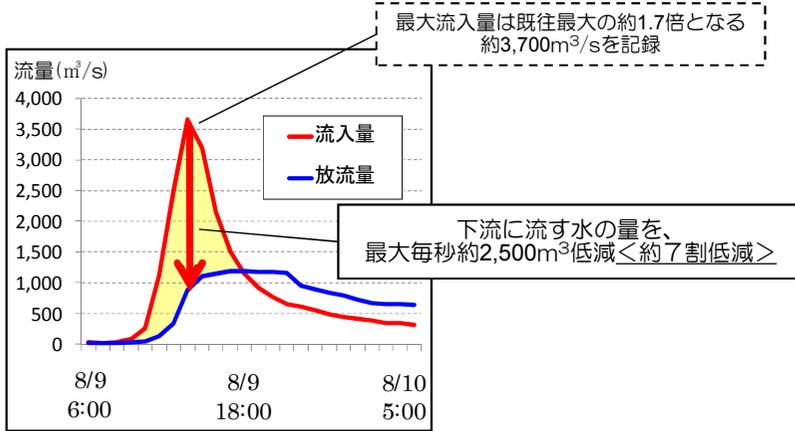


※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

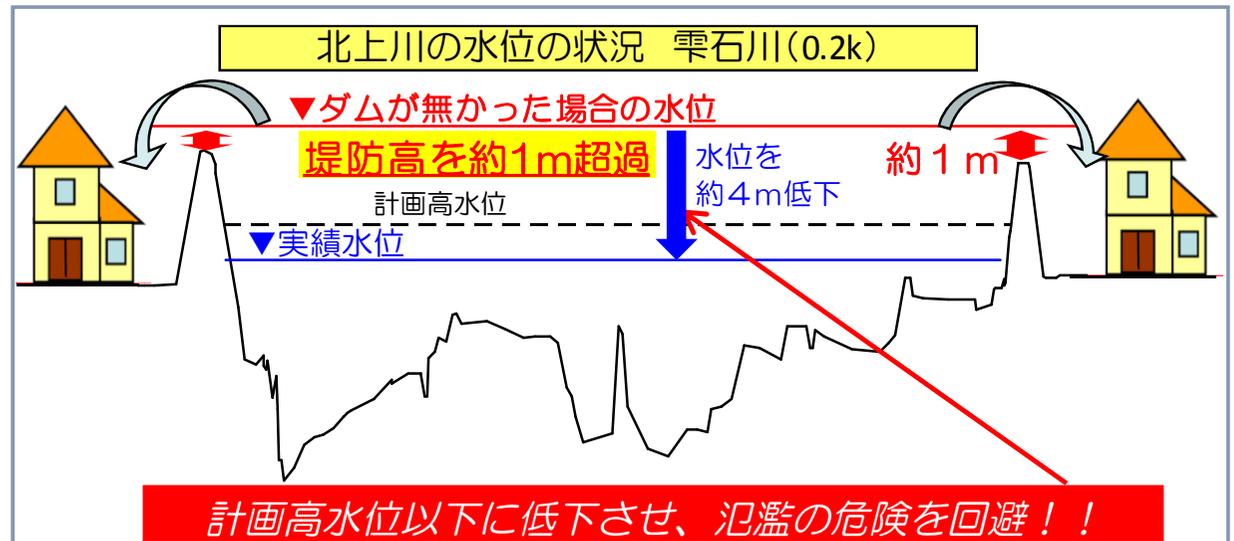
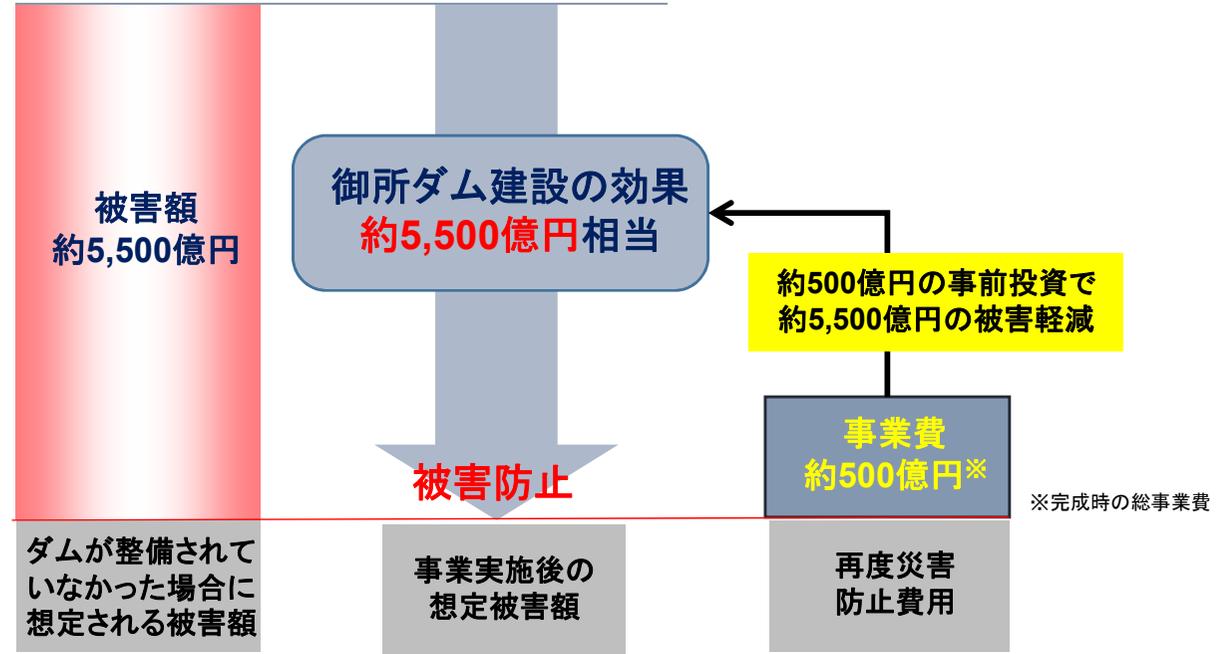
治水対策の効果

- 平成25年8月の洪水では、御所ダムにおいてこれまでの最大流入量の1.7倍となる約3,700m³/sが流入。
- 御所ダムの洪水調節により、被害額にして約5,500億円の被害防止が図られたと推定される。

御所ダムの洪水調節



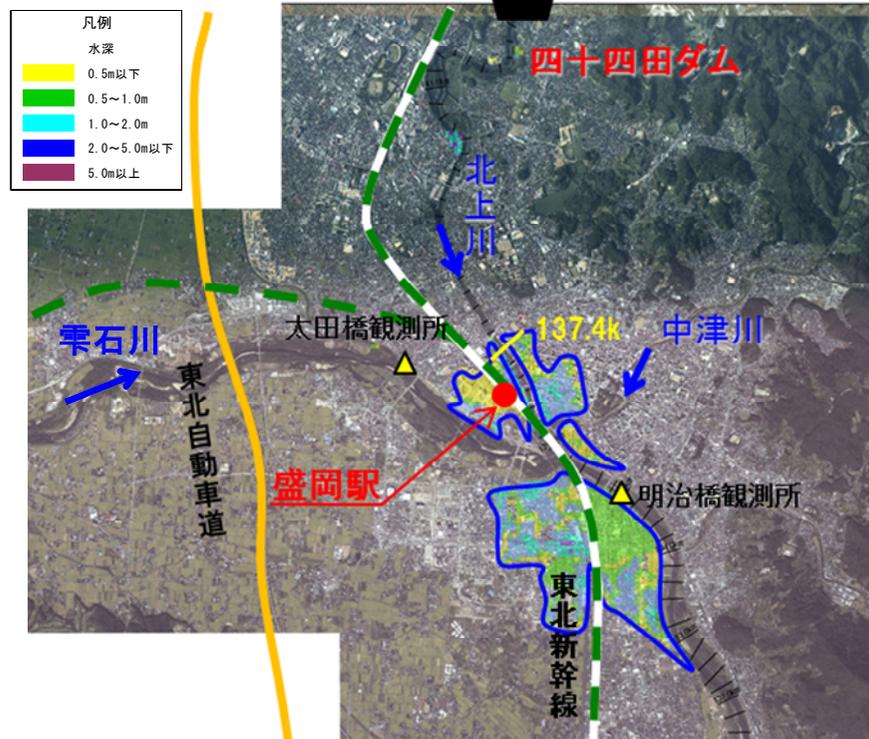
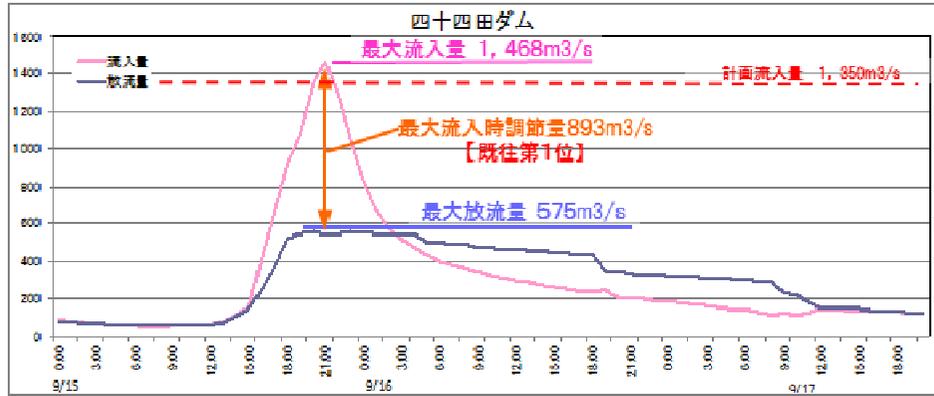
ダムが無かった場合に想定される浸水状況



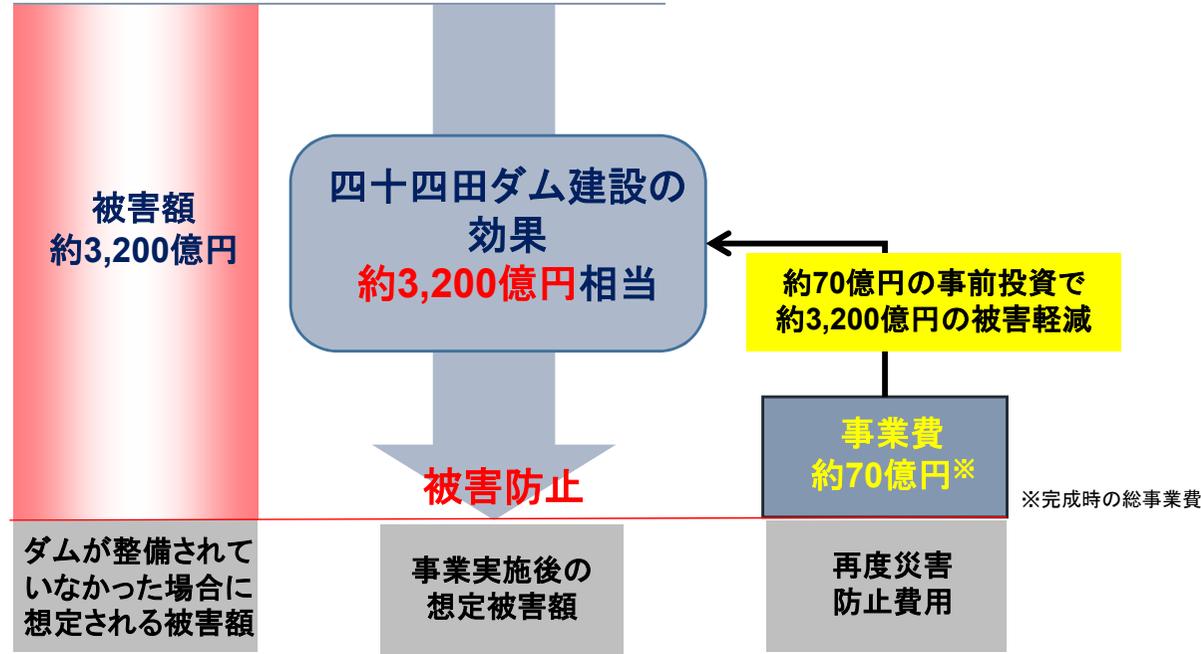
※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

治水対策の効果

- 平成25年9月の洪水では、四十四田ダムにおいて既往第1位の最大流入量1,468m³/sを記録。
- 四十四田ダムの洪水調節により、被害額にして約3,200億円の被害防止が図られたと推定される。



ダム無かった場合に想定される浸水状況



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

